

中田かわら版 6 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい〈85〉

まちの便利な印刷屋

～出会いとつながりを大切に～

STS 印刷センター社長 齋藤 信幸さん (54 歳) 中村町内会

中田駅近くにある STS 印刷センターは中田ではよく知られているお店です。その 2 代目社長・齋藤信幸さんにインタビューしたいとお店に伺った。店内は機械と用紙棚の山。面談中でも細長い店内で来客のたびに奥の方から顔を出し、通路を行ったり来たりしていた。

初代社長・正信さんが中田に STS 印刷センターを開店したのは昭和 52 年 (1977 年)、信幸さんが 5 歳の時である。住居は中田東にあって信幸さんは東中田小学校・中田中学校を卒業。子どもの頃から父親から「店を継いでくれ」と言われてきたとのこと。また父親は中卒で福島から出てきて苦労していたためか「お金は自分で働いて稼げ」とも言われてきた。店には高校 1 年の時からアルバイトとして働いた。高校卒業後は東京の印刷会社で 5 年間修業を積み、父と共に店を守ってきた。キャリアとしては高校から働いているので 38 年になる。もう充分ベテランの域である。



■ 今年が泉区制 40 周年の年。当時の店は葛の口 (現中田駅) 交差点近くにあった。それから地下鉄「中田駅」開業と、長後街道 2 車線から 4 車線に拡張の為、店は交差点から離れた現在の場所に移転となった。

■ 中田に根付いて安定してきた令和 4 年 (2022 年) 11 月に初代社長が亡くなり、2 代目社長として引き継いで 4 年目になる。

信幸さんは平成 26 年 (2014 年) から息子さんの通う東中田小学校、中田中学校で PTA 会長を務めた。その時に「地域の方とは店のお客様として面識はあったが、地域活動としての関わりの必要性・大切さを改めて感じました。大変でしたがとても充実して実りある経験が出来ました」と当時を思い浮かべながら語るその顔は明るい笑顔と自信に満ちていました。その経験から、今では更に地域活動の輪を広げている。

■ まずは、なかだ商店会会長、さらに中田中・東中田小学校地域コーディネーター、3 年前から横浜中田ジュニアマーチングバンド副代表を受け、地域との繋ぎ役や広報活動等を担っている。そして中田地区経営委員会・会計。昨年度から中田連合自治会防災部部長を任命され、地域防災への興味が一人でも多く認識されるように啓発に努めている。

■ どこにそんな活力と時間を生み出しているのだろうかとの問いに「印刷の仕事も地域活動も自分にとってチャレンジという側面が大きいのです。ひとつひとつの細かいニーズにできる限り応えていくことで、ありがたい言葉や、喜びの顔を見た時にやってよかったなあ・・・と、達成感を感じます」と、爽やかに語る齋藤信幸さん。これからもその奮闘力で中田地域に活力を注いでくれることを期待して、エールを贈ります！！

松本 純子

■とっておきの秘話情報<2>

山神社の板碑 (いたび) 盗難事件 (下)

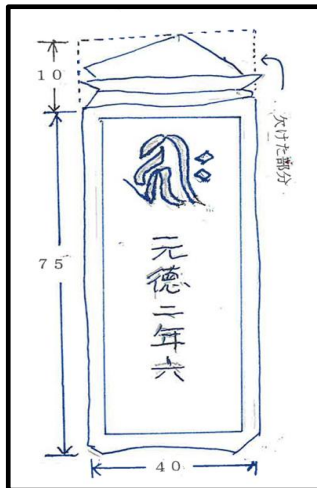
宮田 貞夫

「板碑って一般の人にとって、どんな価値、関心があるのか」——。そう言われると私としては何と答えたらいいかわからない。では、私に一流メーカーのゴルフ道具一式をプレゼントすると言われたら断るだろう。「小さな穴にボールを入れるのがそんなに面白いの？」となる。ある時、御霊神社宮司・宮本忠直（郷土歴史家）さんが私に言ったことがある。「昔の歴史話を書いた場合、それが正しいのか、間違っているのか誰も分らない。実際に見た人がいないのだから。だから自分が自信をもって、こうだと思ったら、それでいい。歴史って、そんなもんだよ」。

ところで山神社のご神体として崇められていた板碑が盗難されたのが平成 21、22 年(2010 年)ごろとされている。板碑に書かれていた紀年銘には元徳 2 年(1330 年)6 月。もしそれが現存されていたら中田では最も古い価値のあるものだった。関係者や地元の人から記憶が薄れかけた

15 年後、令和 7 年 4 月に小島民俗資料館の解体に当たり資料の調査・探索中、小島さんが撮った写真の中から

盗難の写真 2 枚が発見された。さらに A4 の用紙に書かれた盗難前の板碑のスケッチには寸法とコメントが書かれていた。(下のカギカッコ内)「葛野山神社御神体、縦 75cm、幅 40cm、頭部が欠けてなし、(撮影日)昭和 54 年 11 月 17 日、祭礼の日 妹キミ子が布で拭いていた」。小島さんが几帳面に残してくれたおかげで、今私たちは板碑の全容が分かってきた。



地名「葛野」という歴史と背景を少々考察してみたい。まず葛野は「中田」の発祥の地と言われている。平安期(1180 年)に数軒の農家が移り住み山の水を利用して生活が始まった。現在も三橋家や地元農家 15 軒(森 俊男代表)によってまつりごとが年 2 回おこなわれている。3 月春の種子蒔きで豊年を祈り、11 月の秋には豊作を祈願し感謝をする五穀豊穡の大切な行事になっている。ある古老(当時 81 歳)の話によると子供の頃、夜になると田舎芝居などを呼んで盛大だったと昔を振り返る。また、明治政府の寄官令にも係わらず葛野の人たちが、なぜ従わなかったのか理由については分かっていない。分かっているのは今も立派に存続しているという純然たる事実である。

編集後記

このところ大規模火災が頻発している。住宅火災、山火事、そのいずれもがとてつもない広範囲を焼き尽くし、多くの人々が住むところを失っている。テレビのインタビューで「津波で家を失い、山に建てたら燃やされてしまった」・・・絶句。宮の台市民の森で中高生がタバコを吸っているのを見かけて、その場は注意して消したがタバコ一本が大火災の原因になり得る！！

河内満明

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之